

えんがわ

第105号

2016年5月発行

発行元 衣笠病院グループ
衣笠須賀市小矢部
2-23-1
Tel 046-852-1182

故郷の味

生まれて初めて神戸を離れたA氏。粉もん文化育ちで明石焼きが懐かしいとポツリ。神戸っ子は、だし汁ではなくソースで食べるとか。少し活気を失っていたA氏。明石焼きが出て来たら驚くかな、喜ぶだろうな。よし、故郷の味再現だ！

クックパッドで調べ、食材調達。関東人には未知のメニュー。不安ながら栄養士・ボランティアさん・患者さんにもご協力頂き、A氏の笑顔見たさに頑張る



(笑) 担当看護師が器用に丸く

ふんわり明石焼きを焼いた。ぼっかけを入れてネギ焼きも完成。木の器に紅生姜も添え、ホカホカ湯気の立つうちにA氏の所へ。調子どうかな？食べられるかな？お昼ですよと先ず態勢を整える。浮かないお顔。まだ気付かない。テーブルに視線を落とし、目を見開いて歓声を上げる。食欲がなく最近あまり食べられなかったA氏がペロリ完食。「全く同じ味。美味しい。ここでこれが食べられるとは夢にも思わなかった」と家族に語ってたそう。皆で喜びを分かち合う。それからお別れまで一か月なかった。「おおきに」と笑うA氏にもう一度会いたい。衣笠病院ホスピス病棟 看護主任 谷村 美希

えんがわ在宅 ひとくちメモ

亡くなった後大切

衣笠ホームでは、お看取りの後、丁寧なお別れをします。施設によってはひそやかに通用口でお別れすると聞きますが、ここでは施設長などが聖書を読み、祈りを捧げ、ユニットの同居者・職員が挨拶し、正面玄関からお送りしています。

ご希望の方には施設内ホールでご葬儀もします。その場合はチャプレンや近隣教会の牧師が司式をし、亡くなった方の歩みをご紹介しながら、出合いの与えられたことを神に感謝します。ご葬儀に外からお見えになったのが、後見人の弁護士さんお一人だったということもありました。しかし

たくさんのホームのお仲間に見送られた温かなご葬儀でした。ご家族にとつてはもちろんです。スタッフがにとつてもきちんとお見送りができることは大切なことです。またやがては旅立っていかれる入居者の方にとつても、ご自分がどう見送られるのかについて安心していただける機会であると思います。

衣笠ホームには鎌倉霊園に墓地があります。初代ホーム長宮地利彦先生がご寄贈下さったお墓です。現在宮地先生ご夫妻を初め四〇人以上の方が眠っております。亡くなった後も大切にされていること。衣笠ホームの良心であると思っております。

大野 高志

この度の熊本地震で被災した方々のことを覚え、お祈り申し上げます。